

データでみる福島再生

最近の動き

○除染等工事の進捗状況

- ・特定復興再生拠点区域における除染工事の進捗は9割を超えており、概ね実施済みですが、引き続き進捗率の向上に取り組んでいく予定です。
- ・令和4年6月12日に葛尾村の特定復興再生拠点区域、令和4年6月30日に大熊町の特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されました。

○除染仮置場等の状況（福島県内）

- ・仮置場等総数1,372箇所のうち、50箇所で除去土壌等を保管中、1,322箇所では搬出が完了し、1,042箇所の仮置場で原状回復が完了しました。

○中間貯蔵施設の整備の現状

- ・除去土壌の分別処理を行い、7月末時点で、約1071.5万 m^3 （輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。
- ・廃棄物の焼却及び焼却灰の灰処理を行い、7月末時点で、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器13,352個を廃棄物貯蔵施設に貯蔵しました。

○中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送の進捗状況

- ・2022年7月末時点で、約1,322万 m^3 の除去土壌等（帰還困難区域を含む）を中間貯蔵施設へ搬入しました。

○中間貯蔵施設用地の状況

- ・用地取得については、7月末時点で契約者数1,844人、面積約1,276haについて契約しております。

○国直轄による対策地域内廃棄物等の処理進捗状況

- ・災害廃棄物等の仮置場への搬入については、6月末時点で、約326万トンの搬入を完了しました（うち、約56万トンが焼却処理済、約213万トンが再生利用済）。
- ・被災家屋等について、6月末時点で、約17,900件の解体申請を受付済みであり、約17,100件を解体済みです。

○国直轄による対策地域内における仮設焼却施設の設置状況

- ・6月末時点で、約137万トン（除染廃棄物を含む）を各仮設焼却施設で処理しました。

○特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況

- ・7月末時点で、239,150袋を特定廃棄物埋立処分施設へ搬入しました。

○放射線に関するリスクコミュニケーション活動状況

- ・放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターにおいて、研修会を3回、専門家派遣を1回、住民セミナーを8回、車座意見交換会を2回実施しました。
 - ・環境再生プラザにおいて、専門家派遣を3回、移動展示を4回（4日）実施しました。
 - ・内部被ばく検査（WBC）を10日間実施しました。
 - ・ガンマカメラを活用し、仮置場の原状回復後の放射線測定を2台日実施しました。
- ※いずれも、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて実施しました。

○帰還困難区域等における鳥獣の捕獲状況

- ・今年度の捕獲数は、7月末現在でイノシシ40頭、アライグマ112頭、ハクビシン58頭となっています。